

高学年：課題と授業改善案

国語	
大田区学習効果測定の結果分析 (経年比較)	<p>【第5学年】 (平成30年度結果：第4学年時) ○全体的に目標値を下回り、区平均正答率にも達していない。 ○話し合いの内容の聞き取りや漢字を読むことは、区の平均値に近い結果を出すことができたが、漢字を書くことや説明文の読み取り、作文については課題がある。 (令和元年度結果：第5学年時) ○前年度同様、全体的に目標値を下回り、目標値に到達していない。特に、漢字を書くことや物語文の読み取りについては、目標値を大きく下回った。 ○説明的文章の読み取りについては、目標値を上回った。</p> <p>【第6学年】 (平成30年度結果：第5学年時) ○正答率が目標値を上回っている項目と著しく下回っている項目がある。 ○前年度まで区平均を上回っていた作文が前回に比べ下回り、目標値に対しても下回った。 ○文章の内容を読み取る項目では、物語文と説明文が目標値を上回った。 (令和元年度結果：第6学年時) ○目標値を下回る項目が多いものの、僅差であった。 ○漢字を書くことについては、目標値を上回っていたが、敬語の使い方や指定された条件で文章を書くことについては、目標値を大きく下回った。</p>
昨年度の成果と課題	<p>【第5学年】 ・要約をする時のポイントや文章の構成を指導することで、説明的文章の読み取りができるようになってきた。 ・漢字の習得については個人差が大きく、引き続き課題が見られる。</p> <p>【第6学年】 ・物語文において、登場人物の心情や様子を捉えて読むことに課題が見られる。 ・例文を活用し、文章全体の組み立てを考えて文章を書く指導を継続して行う必要がある。 ・漢字検定の過去問題を積極的に取り組むことで、習得状況が改善された。</p>
課題	<p>○文章に書かれていることを正しく読み取る力が弱い。 ○一定の条件を満たすような文章を書くことが苦手な児童が多い。 ○漢字の習得における個人差が大きい。</p>
授業改善案	<p>◎物語文の読解では、描写を基に登場人物の心情や様子をとらえる力、説明文の読解では、叙述を基に文章構成や要旨をとらえる力を身に付けさせる。 ○朝学習「南作タイム」を活用し、様々な題や条件に対応して文章を書く場を設定する。また、例文を活用し文章全体の組み立てを考えて文章を書く指導を継続して行う。 ○個別に漢字の習得状況を把握し、漢字検定の過去問題及び、プリントを活用して既習の漢字を当該学年までに配当されている漢字の読み書きができるようにする。</p>

社会	
大田区学習効果測定の結果分析 (経年比較)	<p>【第5学年】 (平成30年度結果：第4学年時) ○全体的に目標値を下回り、区平均正答率にも達していない。 ○観点別正答率も区の平均を下回った。 (令和元年度結果：第5学年時) ○全ての項目で目標値を下回った。特に、「地図の見方」では、目標値を大きく下回った。</p> <p>【第6学年】 (平成30年度結果：第5学年時) ○「地図の見方」「県の様子」の項目が目標値を下回った。 ○「県の様子」が目標値を下回っている。「生活環境を守る活動」「先人の働き」については目標値を上回る結果になった。 (令和元年度結果：第6学年時) ○全ての項目で目標値を下回った。特に、「自動車をつくる工業」では、目標値を大きく下回った。</p>
昨年度の成果と課題	<p>【5年生】 ・社会科に対する意欲・関心が低い。 ・基礎・活用の基礎的な力に課題がある。 ・調べ学習は興味・関心をもって取り組んでいたが、どの資料を読み取ればいいのかわからず、上手にまとめることができなかった。</p> <p>【6年生】 ・都道府県の名称と位置についての理解がとても低い。 ・地図帳の使い方が十分でないので、地図を活用していく力をつけていくことが課題である。</p>
課題	<p>○関係諸機関の基本的な役割や連携を関係付けて考えることが課題である。 ○習得した知識や資料等から、自分の考えをまとめる力が十分ではないので、自分の考えをもって授業に取り組むことが課題である。</p>
授業改善案	<p>◎都道府県の名称と位置について、校内テストなどで着実に定着させる必要がある。 ○地図帳を使用し、地理的なことを中心とした問題を授業に取り入れながら、地図に慣れる指導を繰り返す。 ○資料等から読み取れること、考えたことをノートにまとめ、友達と考えを比較しながら話し合いをする時間を作る。</p>

算 数	
大田区学習効果測定の結果分析 (経年比較)	<p>【第5学年】 (平成30年度結果:第4学年時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○正答率が目標値や区の平均値を下回っているものが多い。 ○領域別では、「数や計算」「図形」がやや弱い。 ○観点別では、特に「数学的な考え方」の正答率が低い。 <p>(令和元年度結果:第5学年時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○正答率が目標値や区の平均値を下回っているものが多い。 ○領域別では、「数と計算」「量と測定」が弱い。 ○観点別では、特に、「小数」「分数」の正答率が低い。
	<p>【第6学年】 (平成30年度結果:第5学年時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全体的に目標値を上回っているが、区平均正答率には達していない。 ○領域別に見ると、「数と計算」「図形」は比較的できているが、「量と測定」が弱い。 <p>(令和元年度結果:第6学年時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○正答率が目標値や区の平均値をほとんどの領域で下回っている。 ○領域別では、「数と計算」が、特に弱い。 ○観点別では、「小数・分数の計算」「図形の角・円周」の正答率が低い。
昨年度の成果と課題	<p>【5年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形の性質を調べたり、図形を丁寧に描いたりすることが苦手な児童が多い。 ・今まで学習したことを生かし、様々な場面に応じて柔軟的に算数的知識を活用する力に課題がみられる。 ・個人差が大きく、基礎・基本が身につけていない児童がみられる。 <p>【6年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形概念・性質、構成要素の理解がやや不十分で正確に作図することが苦手である。 ・個人差はあるが、わり算の計算や小数・分数の仕組みやその計算など基本的な内容が習熟されていない児童が見られる。 ・倍の計算などで演算決定を誤る児童が多い。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ○小数・分数の計算がかけ算・わり算共にできていない。小数点の付け方、約分の仕方に課題がある。 ○コンパス・分度器・三角定規を使って正確に作図をすることができない。 ○基礎基本の計算力の定着ができていない。
授業改善案	<ul style="list-style-type: none"> ◎ステップアップ学習プリント等を活用して学習したことが確実に身に着くようにする。 ◎習熟度別指導を通して、一人一人の実態を把握して個に応じた指導を充実させる。 ◎問題をよく読み、ノートに自分の考えを書かせる。その際、図や数直線で表すことを意識的に行い、筋道立てて考える力を養っていく。 ◎基礎・基本の定着が不十分な児童には、スモールステップ学習で個別に対応し、「できた」「分かるようになった」という経験を積み、算数への意欲・関心を高めていく。

理 科	
大田区学習効果測定の結果分析 (経年比較)	<p>【第5学年】 (平成30年度結果:第4学年時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「生命・地球」「物質とエネルギー」両領域において正答率が区の平均を下回った。 ○観点別で見ると、「科学的な思考・態度」「自然事象についての知識・理解」が目標値を下回った。 <p>(令和元年度結果:第5学年時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「物質とエネルギー」の領域において正答率が目標値を下回っているものが多い。 ○出題項目で見ると、「ものの体積の温度(水)」と「水のすがた」の問題で、かなり目標値を下回っている。
	<p>【第6学年】 (平成30年度結果:第5学年時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全体的に目標値を下回るものが多かった。 ○観点別に見ると、「自然事象への関心・意欲・態度」「科学的な思考・表現」が特に目標値を下回っていて、問題の内容を見ると、「1年間の動物の様子」「月と星」「ものの体積と力」「ものの体積と温度」が特に弱い。 <p>(令和元年度結果:第6学年時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○昨年度に引き続き全体的に目標値を下回るものが多かった。 ○領域別に見ると、「生命・地球」において、かなり目標値まで差がある。
昨年度の成果と課題	<p>【5年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度課題のあった「生命・地球」の領域について、観察・実験を豊富に取り入れたり、ICT機器を使って丁寧に学習を進めたため、前年度より正答率が上がった。 ・物質とエネルギーの領域については、継続して指導が必要である。 <p>【6年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験の仕方が丁寧に行え、昨年度の指導の成果が感じられる。 ・テストで点を取ることができない児童が多く、試験への取り組む姿勢と学習の定着に課題がある。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ○5年生は「物質とエネルギー」、6年生は「生命と地球」の領域について、再度復習が必要である。 ○観察・実験、ノートまとめの力は感じられるが、テストで点が取れない児童が多い。 ○記述問題の無回答が多い。
授業改善案	<ul style="list-style-type: none"> ◎学習したことを、記述で答えたり説明できるよう、ノート・ミニテスト等で学習の定着を確認していく。 ◎各学年、目標値を下回った領域に属する単元は、基礎・基本を確実に身に付けられるよう、復習する。 ◎体験的に学ぶ活動をしっかりと準備し、学習の定着につなげる。 ◎実物や図、表、グラフなどを使って、見た目では分からない物の変化についてのより確かな知識を身につけさせる。

音楽	
昨年度の成果と課題	<p>【5年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常時活動で歌唱活動を取り入れたり、歌唱の発表を取り入れることで歌唱活動に主体的に取り組む児童が増えた。 ・器楽指導では個別の指導を計画的に取り入れたことで一人一人の技能の習得に成果がみられたが、まだ課題が残る。 <p>【6年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常時活動で季節の歌や行事の歌を取り入れることで、歌唱活動に意欲的に取り組む児童が増えた。 ・器楽指導では既習事項の復習を多く取り入れたが、不安の残る児童が多く、意欲的に取り組めない児童がいる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人での演奏はできるが、お互いの音を聴き合って演奏することが難しい場合がみられる。 ○前学年までのリコーダーや鍵盤ハーモニカの指使いに不安の残る児童がおり、技能の差が大きくなっている。 ○パート別に歌わせると歌えるが、二部合唱にして歌うと自信がなく声量が弱くなってしまふ。
授業改善案	<ul style="list-style-type: none"> ◎リコーダーや鍵盤ハーモニカなどの器楽指導は、楽曲選択やパートの工夫をし、スモールステップを組んで指導する。 ○個別に指導する時間を計画的に取り入れる。 ○フラッシュカードやICTを活用し、既習事項の復習や技能(持ち方、運指など)の指導を行い、自信をもって学習に取り組めるようにする。

図工	
昨年度の成果と課題	<p>【5年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水彩絵の具とアクリル絵の具の様々な技法に触れることで、表現の幅が広がり、作品に活用する姿が見られた。 ・糸のこぎりの安全な使い方を習得することができたが、計画性に課題のある児童が見られた。 ・基本的な技能を身につけるのに時間がかかり作品制作に生かせない傾向がある。 <p>【6年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技能を身につけたあとの独創性が足りない児童がみられる。 ・作品制作については積極的であるが、集中力、持続力に欠ける児童がいる。 ・材料や用具の特徴を考え、取捨選択して作品に取り入れることに課題が残る。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○用具の使い方をスモールステップで行っているが、時間がかかる。 ○技能を身につけたあと作品イメージを持たせる際に、意見や工夫が深まらない。 ○計画的に作業を行う意識が低い。 ○作品完成まで集中力を維持できない傾向がある。 ○材料の特性や用具の効果的な利用方法が身に付いていない児童がいる。
授業改善案	<ul style="list-style-type: none"> ◎構想の段階で、グループごとに意見交換の場を設け、題材についてのイメージを伝え合う中で、新たな発想や効果的な表現方法を考察する時間を設ける。 ○自分なりの工夫ができていない作品を教員が取り上げて全体指導に生かすことで、自分の作品へのこだわりをもつ態度を育てる。 ○用具の使い方のスモールステップは継続して行うが、活動内容を精査し短時間でできるものを設定する。 ○制作過程ごとに目標設定をし、段階的に作業を進める。また適宜ワークシートを活用し、計画的な作業を意識づける。

家庭	
昨年度の成果と課題	<p>【5年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常時活動で主体的に取り組む児童が増えた。 ・学習したことを自分の生活に活かす着実な姿勢が十分でない。 <p>【6年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常時活動で主体的に取り組む児童が増えた。 ・学習したことを自分の生活に活かす着実な姿勢が十分でない。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○製作の際の細かい作業やミシンの使い方においては、理解・定着に、個人差がある。 ○学習したことを自分の生活に活かす着実な姿勢が十分でない。 ○製作の際、興味をもって取り組むが、作品に創意工夫を生かそうとする姿勢に欠ける。 ○バランスのよい食事について理解はしているが、実際には好きな物を摂取し、偏った取り方になってしまう傾向がある。 ○活動に対する個人差が大きく、必要な材料や手順を踏まえ、製作計画や調理計画を立てられない児童が多い。 ○学習して身に付けたことを生活に役立てて取り組むことに課題が見られる。
授業改善案	<ul style="list-style-type: none"> ◎製作や調理の学習に際して、実物標本や段階標本などを提示の仕方を工夫し、作業中に児童が互いに教え合えるようにする。 ○ワークシートやチェックカードなどを活用して授業のふり返りを行い、家庭での実践を心がけさせる。 ○生活に役立てた取り組みや友達の実践を共有し、自分や家族のためによりよい生活が送れるための取り組みをさらに考えられる場を設定する。

体育	
昨年度の成果と課題	<p>【5年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム型の授業では、得意な児童が中心となっていて、苦手な児童は消極的な参加となっている。 ・体力テストの結果から、投てき力にやや課題がみられる。 ・苦手意識や経験の不足により、興味をもって取り組める運動に個人差が見られる。 <p>【6年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの結果から、投てき力にやや課題が見られる。 ・苦手意識や経験の不足により、取り組める運動に個人差や個人内差が見られる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○苦手意識が、個人差・個人内差で強く、興味をもって取り組める運動に差が見られる。 ○投てき力やボールを投げる、捕る運動に課題がある。 ○ボール運動では、チーム全員で活動するよりも、得意な児童のみが活動する場面が多い。
授業改善案	<ul style="list-style-type: none"> ◎技能に応じて練習方法を工夫したり作戦を立てたりして、活動に目標をもたせ、意欲的に取り組むことができるようにする。 ○一年間を通して、キャッチボールクラシック(ボールを投げる・捕る)に取り組み、投てき力と捕球の技能を上げる。 ○集団でのかかわりが必然的に求められるような学習教材を選び、学習形態を工夫する。 ○児童が互いに助言し合い、高めあっていけるように活動の振り返りを行う。

外国語活動	
昨年度の成果と課題	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語に対して初めから苦手意識を示し、積極的に取り組もうとしない児童がいる。 ○外国語を使ってコミュニケーションを取ることに苦手意識をもつ児童が多い。
授業改善案	<ul style="list-style-type: none"> ◎ゲーム活動を多く取り入れ、楽しみながら外国語を学べる学習環境をつくる。 ○発音練習を何度も繰り返し、自然とその単語を発音できる環境をつくる。